

第6学年 図画工作科学習指導案

6年2組 24名

授業者 中島 賢一朗

授業場 6年2組教室

1 題材名 絵の世界へタイムトラベル ～感じるみりよくを伝え合おう～

「B鑑賞（1）ア、共通事項（1）ア（1）イ」

2 題材設定の理由

本題材は、本校の近隣にある徳島城博物館に展示されていた阿波踊りを描いた2枚の作品の鑑賞活動である。身近な伝統文化である阿波踊りをモチーフにしているが、江戸時代に描かれた絵であることから、児童はこれらの作品を今回初めて鑑賞する。同じ阿波踊りでも描き方や色彩、人々の様子や雰囲気等、異なる点が多い。1枚の絵を見ただけでは気付かなかった形や色などに込められた表現の意図や特徴について、2枚を並べて鑑賞するという能動的な行為により気付くことができると考える。本題材の鑑賞活動を通して徳島城博物館や美術館等にある身近な芸術を味わう態度の素地になってほしい。

本学級の児童は、1学期に行った「ゲルニカ」や徳島県立近代美術館の鑑賞シート「伊原さんの絵でおしゃべり」での鑑賞の学習において、一人一人が自分らしい見方や感じ方を持ち、作品の特徴から自分なりにその作品に込められた思いを捉え、説明することができていた。しかし、友達と考えを伝え合い、多様な見方ができることを体感したり、考えを聞いたことで自分の考えをより深めたりすることは十分にはできていない。そこで、2枚の作品を提示し、どちらが好きかを選択し、その根拠を造形的特徴を基に伝え合う。さらに、様々な考えを聞いて、自分の見方や感じ方を見つめ直すことで、新たな気付きが得られると考えた。また、児童は修学旅行や社会科の学習でたくさんの文化的な芸術作品を見ており、国語科の「『鳥獣戯画』を読む」の学習では日本文化が今につながることは大変意義があると学習している。本時ではそれぞれの作品の表現の意図を考え、それを比較し、共通点や相違点について伝え合いをする。自分たちにとって身近な阿波踊りがどのように踊られていたのかを知り、作者の気持ちになってみる。そして、もう一度作品を見たときに、踊り手の表情や身体表現の巧みさなど、形や色など造形的特徴の新たな気付きがあると考え。それが、作品に対する考えの再構築をすることにつながり、自分の見方や感じ方をさらに深められることを期待して本題材を設定した。

指導にあたっては、形や色などの造形的特徴に注目し、自分のもつ阿波踊りのイメージとも関連付けながら好きな作品を選び、伝え合うようにさせたい。その際、根拠を示して伝え合うことができるように、作品の魅力的な部分を模写させるようにする。そうすることで、選んだ作品の造形的特徴により注目できるとともに、作品がより身近になり、自分事として魅力を語ることができるようになることを考える。また、作品からどのような会話が聞こえてくるか等、児童に問い返しをしながら交流を進めることで、作品の世界に入った鑑賞ができるようにし、見方や感じ方を深めることができるようにもしたい。さらに、作者の表現の意図を考える活動では、グループ活動を取り入れ、作品全体を見てどのようなことが考えられるかを伝え合うようにする。部分に注目して考えられることに加えて、作品全体を注意深く見

ることで、作品に対する見方や感じ方を広げ深められるようにしたいと考えている。

3 題材の目標

- (1) 親しみのある美術作品に触れたり見たりするときの感覚や行為を通して、色彩、動き、美しさや面白さなどを理解する。(知識及び技能)
- (2) 親しみのある美術作品の造形的なよさ、美しさや面白さ、表現の意図や特徴などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 前の時代から受け継ぎ、生活の中で親しまれてきた美術作品のよさ、美しさや面白さを味わう活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解している。	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、生活に身近で親しみのある美術作品の造形的なよさ、美しさや面白さ、表現の意図や特徴などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。	前の時代から受け継ぎ、生活の中で親しまれてきた美術作品のよさ、美しさや面白さを味わう活動に、主体的に取り組もうとしている。

5 指導計画（1時間 本時 1／1）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1 (本時)	- 自分が好きな作品の魅力的に感じたところを模写し、考えたことを伝え合う。 - 作者の表現の意図をグループで考え、それぞれのグループの考えを伝え合う。	思 ◎ (鑑賞) 態 ○	- 作品から感じ取ったり考えたりしたことを基に伝え合っている様子を観察する。(対話・観察・ワークシート) - 問いかけたり、ワークシートを見たりなどして学習状況を把握し、記録に残す。 (対話・観察・ワークシート)

○題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

6 本 時

(1) 目 標

選んだ絵の魅力的な部分を伝え合うことで、それぞれの絵の特徴やよさや美しさを感じ取ったり考えたりする。さらに、作者の表現の意図を考え、共通点や相違点を見出すことで、自分の見方や感じ方を広げ深めることができる。

(2) 展 開

時間	学習活動	指導上の留意事項 ○評価【観点】(評価方法)
10 分	1 それぞれの絵について気付いたことを出し合うことで、本時のめあてを設定し、学習の見通しをもつ。	・国語科での『『鳥獣戯画』を読む』の学習や修学旅行で見た美術作品に触れ、徳島の今に伝わる日本文化を想起できるようにする。 ・それぞれの絵の特徴的な部分を挙げていくことで、本時のテーマが阿波踊りであることを、児童が自発的に気付けるようにする。
好きな絵のみりよく、おもしろさを伝え合おう。		
15 分	2 阿波踊りの様子が描かれた2枚の絵のうちどちらが好きかを決め、どのようなところが好きかを伝え合う。	・それぞれの絵はどのような感じがするかを問うことで、イメージしたことから好きな作品を選ぶことができるようにする。 ・選んだ魅力的な部分を模写させることで、好きな根拠をより焦点化できるようにする。 ・立場に分かれて話し合いをすることで、それぞれの絵に多くの魅力的な部分があることに気付かせ、もう一方の絵の特徴や面白さも感じ取ることができるようにする。
15 分	3 作者の思いをグループでまとめ、伝え合う。	○ 作品のよさや美しさ、面白さを主体的に味わう活動に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】(対話・観察・ワークシート) ・同じ絵を選んだ児童同士でグループを形成し、絵の造形的特徴に着目させて伝え合うことで、作者の表現の意図を考えさせる。 ・読み解いた作者の意図を比較することで、作品の共通点や相違点について考えを深められるようにする。 ○ 絵を分析的に見ることで作者の表現の意図を読み解き、自他の見方、感じ方の違いに気付いて自分の見方や感じ方を広げている。【思考・判断・表現(鑑賞)】(対話・観察・ワークシート)
5 分	4 本時の学習の振り返りをする。	・2枚の絵を注意深く見て発見したことや伝え合って気付いたことを振り返りの視点として示す。

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	・ 造形的特徴から作者の意図を感じ取り、友達と伝え合うことで作品世界を深く捉えることができている。 ・ 作品の特徴やよさや美しさを感じ取り、友達と伝え合うことで自他の見方、感じ方の違いに気付き、自分の見方や感じ方を深めている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	・ 作品のどの部分に注目するかを一緒に考えるようにし、そこからよさや面白さを見つけ、自分なりのイメージをもって表現できるようにする。 ・ ペアやグループ活動を取り入れることで、自分の考えを表現しやすい場を設定する。